

奥村 功教授 略歴・論文等一覧

略歴

- 1936年10月26日 京都市中京区に生まれる
- 1956年4月 大阪外国語大学フランス語学科入学
- 1958年3月 同大学2年終了退学
- 1958年4月 京都大学文学部（フランス語学フランス文学専攻）3年次編入学
- 1961年3月 同学部卒業
- 1961年4月 京都大学大学院文学研究科修士課程（フランス語学フランス文学専攻）進学
- 1963年3月 同課程修了
- 1963年4月 同大学院博士課程進学
- 1963年10月 フランス政府給費留学生としてパリ大学文学部に留学
- 1966年1月 帰国
- 1966年4月 立命館大学経済学部専任講師（フランス語担当）
- 1969年4月 同助教授
- 1974年4月 経済学部補導主事（1975年3月まで）（1974年10月より学生主事と職名変更）
- 1975年4月 外国語科連絡協議会副委員長（1976年3月まで）
- 1977年4月 立命館大学経済学部教授
経済学部二部教務主任（1978年3月まで）
- 1984年10月 パリ第三大学言語学音声学研究所に留学
- 1985年9月 帰国
- 1997年4月 入学試験委員会副総主査（1998年3月まで）
- 2001年4月 （びわこ草津キャンパス）初修外国語部会長（2002年3月まで）
- 2002年3月 立命館経済学部教授を停年退職（予定）

非常勤講師歴

- 1966年～1974年 同志社大学（フランス語）
- 1975, 1977年 奈良女子大学（フランス語）
- 1978, 1979年 同志社大学（フランス語）
- 1980年～1983年 京都大学教養部（フランス語）
- 1982年 京都大学文学部（フランス文学） Alfred de Musset : *Un Caprice*, Jules Renard : *Le Plaisir de rompre* を講ずる
- 1983年 同上 Alfred de Musset : *Lorenzaccio* を講ずる
- 1985年10月～1987年11月 京都大学教養部（フランス語）
- 1988, 1989年 京都大学教養部（フランス語）

1991年～1995年9月 京都大学教養部，同総合人間学部（フランス語）

論文等一覧（とくに記載のないものは単著）

I. 論文

1. 1968年 「コメディエール・イタリエーズにおけるマリヴォー上演略史」（立命館大学）「外国文学研究」15号
2. 1970年 「マリヴォーの『恋にみがかれたアルルカン』について」『外国文学研究』19号
3. 1974年 「Parade について」『外国文学研究』31号
4. 1977年 「草創期の Foire の芝居について(1)」『外国文学研究』38号
5. 「草創期の Foire の芝居について(2)」『外国文学研究』39号
6. 1979年 「第二外国語教育の諸問題」『外国文学研究』45号
7. 1991年 「ヴィクトル・ユゴーとチオンヴィル」『立命館言語文化研究』3巻1号
8. 1992年 「明治初期のあるフランス留学生—湯川温作—」『立命館言語文化研究』4巻1号
9. 1994年 「加藤恆忠宛仏文書簡(-)」（ベルナル・トマンとの共著。翻字，解説，翻訳，および注記）『立命館言語文化研究』6巻3号
10. 1995年 「パリの岩倉使節団—文明都雅の尖点—」（西川長夫，松宮秀治編『『米欧回覧実記』を読む 1870年代の世界と日本』〈法律文化社〉所収）
11. 「明治初期のあるフランス留学生—湯川温作—」（西川長夫，松宮秀治編『幕末・明治期の国民国家形成と文化変容』〈新曜社〉所収）（上記8. と下記VI. 12. をひとつに改稿したもの）
12. 1996年 「加藤恆忠宛仏文書簡(二)」（ベルナル・トマンとの共著）『立命館言語文化研究』8巻1号
13. 「加藤恆忠宛仏文書簡(三)」（ベルナル・トマンとの共著）『立命館言語文化研究』8巻2号
14. 1998年 「西園寺公望のフランス語蔵書」『立命館経済学』46巻6号（奥村剋三教授退任記念論文集）
15. 「西園寺公望のフランス語蔵書—その二 陶庵文庫—」『立命館経済学』47巻2, 3, 4号（立命館経済学五十周年記念論文集）
16. 2000年 「西園寺公望のフランス学」（田辺保編『フランス わが愛』〈青山社〉所収）

II. 教科書編纂

1. 1980年 『ゴッホの手紙抄』（*Lettres de Vincent Van Gogh*）（丹治恆次郎との共編）白水社
2. 1981年 『フランス生活の作法Ⅰ—日常編—』（Gérard Vigner : *Savoir-vivre en France*, Hachette, 1978）芸林書房
3. 1982年 『フランス生活の作法Ⅱ—招待・歳事編—』芸林書房
4. 1983年 『フランス語の華—文法編—』（丹治恆次郎との共著）白水社
5. 1984年 『ロートレックの手紙』（Henri de Toulouse-Lautrec: *Lettres 1871-1901*, Gallimard, 1972）白水社
6. 1990年 『フランス語の華—読本編—』（丹治恆次郎，ジャック・ラローズとの共著）白水社

7. 1990年 『ヴィクトル・ユゴーの世紀Ⅰ』（Pierre Gaspard-Huit: *Hugo un satyre de génie*, Editions Mengès 1985）白水社
8. 1991年 『ヴィクトル・ユゴーの世紀Ⅱ』白水社
9. 『フランス語の華一文法編一』（丹治恆次郎との共著。上記4. を約2/3に縮めた改訂版）白水社
10. 1992年 『やさしい詩とシャンソン』（小山俊輔との共著）芸林書房
11. 1999年 『総合フランス語ハイブリッド版』（嶋崎陽一, 久田原泰子, 藤井フランソワーズとの共著）白水社

Ⅲ. 翻訳

1. 1985年 ジャック・ソレ 『性愛の社会史 近代西欧における愛』（Jacques Solé: *L'Amour en Occident*, Albin Michel, 1976 に加筆したタイプ原稿による）（西川長夫, 川久保輝興, 湯浅康正との共訳）人文書院

Ⅳ. 書評

1. 1972年 Jacques Brenner: *Les Critiques dramatiques* (Flammarion, 1970) 「外国文学研究」24号
2. 1972年 Jean-Jacques Gautier: *Le Théâtre d'aujourd'hui* (Julliard, 1972) 「外国文学研究」25号

Ⅴ. 辞典執筆

1. 1988年 小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 『小学館ロベール仏和大辞典』小学館

Ⅵ. 小文（フランス, あるいは外国語教育に関するもの）

1. 1986年 「パリ365日」 「立命館学園広報」171号
2. 「パリの変貌—二十年ののち—」 「立命館経済学」35号1号
3. 「管理と創意のはざま フランスで暮らして」 「日本経済新聞」12月9日
4. 「コメディ・フランセーズのこと」（立命館大学外国語科連絡協議会小冊子）《Foreign Studies Forum》No. 3
5. 1987年 「パリで見たイタリア劇団あれこれ」 《Foreign Studies Forum》No. 5
6. 「フランス国鉄の「劇団」」 《Foreign Studies Forum》No. 6
7. 「古い役者のはなし(1)」 《Foreign Studies Forum》No. 7
8. 1988年 「フランスの芝居あれこれ」（立命館教職員組合文集）「群鳩」
9. 「ある喜劇役者の死」 《Foreign Studies Forum》No. 8
10. 「試験でなにを試すのか?—フランス語の場合—」（立命館大学）「外国文学研究」82号〈外国語教育論特集〉
11. 「舞台に立った演劇史家」 《Foreign Studies Forum》No. 9
12. 1991年 「ユゴーの出会った日本人 You-Ka-Va」 「立命館言語文化研究」3巻2号「フォー

ラム」欄

13. 1992年 「生島遼一先生を偲ぶ」（京都大学文学部同窓会誌）「以文」35号
14. 1999年 「外国語教育の歩み」（立命館大学経済学部編『立命館大学経済学部五十年の歩み』第二篇第二章）
15. 2000年 「「授業公開」で何を見るのか？」（立命館大学 言語教育・研究センター／言語コミュニケーションセンター）「センターニュース」No. 6
16. 2000年4月～2001年3月 「単語の整理術」月刊「ふらんす」（白水社）連載
17. 2001年 「「評価」をめぐるあれこれ」「センターニュース」No. 9
18. 「副専攻の楽しみ」「センターニュース」No. 10
19. 「BKC 外国語関係図書費のこと」「センターニュース」No. 11
20. 2002年 「立命館大学フランス語教育の歩み」「立命館経済学」50巻5号
21. 「幕切れのせりふーフランスが教えてくれたことー」「立命館経済学」50巻5号